

## 「経済教育ワークショップ in 川口」 報告

2015年2月14日(土)に「経済教育ワークショップ in 川口」が、川口市立仲町中学を会場に開催された。参加者は34名、関係者8名を含めて42名であった。

このワークショップは、昨年同時期に計画されていたが大雪のために中止になったもので、昨年計画した内容と同じであり、いわばリターンマッチである。

仲町中学は、JR京浜東北線西川口駅から徒歩8分程、商店街が切れた住宅街の真ん中にある今年60周年を迎える学校である。



仲町中学の外観

ワークショップは、まず篠原総一ネットワーク代表の挨拶からはじまった。篠原代表は

「経済はよく身近だけれど難しいといわれる。しかし、経済の仕組みや人々の経済活動は複雑で、決して身近なものばかりではない。経済教育では、その複雑な経済を理解させる為にゲームやシミュレーションが有効となるはず。その手がかりをこのWSから学んでほしい」と述べた。

次いで、大杉昭英先生(国立教育研究所初等中等教育部長)の「分かりやすい経済の授業」の講義が行われた。



講義される大杉先生

大杉先生は、新学習指導要領が実施されて三年目だが、もう次の指導要領の準備がはじまっている。そのなかで議論されているのは、知識ベースの教育ではなく、キーコンピテ

ンシーとよばれる能力ベースのカリキュラム構想であると紹介されて、能力開発を進めるための事例を紹介しながら講義をすすめられた。

講義は、参加の先生たちへの問いかけや作業を 5 つ示されて、その結果を隣の先生や周りの先生たちと共有しながら先にすすめる方式で進める参加型の方式で行われた。その課題作業は次のようなものであった。

一番目、曜日と人数のグラフから、そのグラフのタイトルとその理由を書く。

二番目、経済の学習を終えて、いろいろ忘れてもこれだけは忘れてほしくないという知識、言葉は何？

三番目、四コマ漫画を素材にして、経済の考え方とその漫画を組み合わせたらどんな知識が教えられるか。

この三つは、教材開発の時の暗黙知ともいうべき視点をいかに教師が見つめるかという内容であることが大杉先生から強調された。その後、中学公民の内容構成に関する作業、問いが続いた。

四番目、効率と公正を教える時に、「先生、それって〇〇（シングルライダー）のようなものですね」と言った生徒がいた。それと同じような事例を考えてみる。（大学生の回答事例をヒントに、参加の先生方が前後左右で情報を交換し、そのなかでユニークな内容を発表した）

五番目、小学4年生のお店屋さんの工夫の授業で、「同じ大きさの二匹のタイの値段がちがうのはなぜ」という問いをなげかけた児童がいた。それと同じような疑問形の問いを考えてみる。

経済の授業だけでなく、これからの社会科には、メインクエスチョンがあり、それを知識や概念を使って考え、解答を出すという流れで構成される授業が望まれる。その際には、問いと答えの間をつなぐのが授業であるという授業観の転換が必要となる。その転換をめざしてほしいと締めくくった。

5分間の休憩のあと、三枝利多先生（目黒区立東山中学校）の「経済の授業の進め方」の講義、授業提案が行われた。



講義される三枝先生（机の上はカード）

三枝先生は、まず経済の授業が敬遠されがちな理由、学校をとりまく環境、教えるにあたっての中心概念などを説明されたのちに、シミュレーション型の授業の有効性を説かれた。そのうえで、実践として、「家計のシミュレーションゲーム」を参加の先生方が実際におこなってみることで、その有効性を実感的に理解させる形で講義をすすめられた。

ゲームは、参加の先生を 5 人一組、6 チームに分け、実際の授業スタイルで進行した。各チームは住居費の条件から A, B, C の 3 コースを選択し、そのうえで預貯金などを決定。さらに、カードを引き、カードの内容から様々な家計支出や臨時収入などを経験して最終的な貯金額、満足度などを比較検討した。最後に、シミュレーション型授業を行うための準備として、ジグソー学習法や歴史ディベートの実施が必要というまとめを行って、講義を終了した。

参加された先生方は、大杉先生の講義中の課題や、三枝先生のシミュレーション型の授業への参加を通して、経済学習をいかに構成していったらよいかのヒントを実感的に得たようだった。

なお、仲町中学では、総合学習で起業家教育に取り組んでいて、当日、生徒のアイデアで商品化された「絆」というお菓子が紹介された。これは、福島のリンゴや栗を使ったどら焼きとおまんじゅうで、同校の 60 周年行事とタイアップして、実際に市販されているとのことである。経済教育での、日頃の地道な取り組みが花開いた好例と言えよう。

最後に、このワークショップの実施にあたり、呼びかけ、当日の司会進行などを取り仕切っていただいた大川教頭先生や同校の先生方に感謝いたします。

記録と文責：新井